

## "なぜペ〜" 先生の本

**新** 幹線に乗りながら、おもしろい本を読んだ。知り合いの高濱正伸先生（花まる学習会主宰）が書いた『生きる力』をはぐくむ子育てである。普段、新幹線に乗る時は、車内を散歩してみたりいろいろな人と話したりするけれど、今回は、品川駅から広島駅までずっとこの1冊を読んでいた。

高濱先生の主張は「生きる力も本当の学力も、外遊びから生まれる！」だ。これだけ読むと「外遊びが多い発展途上国の村で育った子どもたちは、学力が世界一高いのか？」と疑問に思うかもしれない。

もちろん、高濱先生の主張はそのような意味ではない。先進国の中でもっとも強い特徴のある日本という国の話である。

この日本について、国内外の機関が

## 外遊びが応用力を高める

実施した調査では、子どもの学力、とりわけ思考能力が下がっているという。天然資源が少ない島国・日本。その発展や繁栄は、これからもソフトの資源、つまり高い教育レベルや優れた労働力にかかっているだろう。

だから、いわゆる応用力、つまり、身につけた知識をその時その時の状況に応じて臨機応変に生かす思考能力の低下は、非常に大きな問題だ。そして、高濱先生はその低下の一因として、外

遊びの激減を挙げている。その通りだと、ピーターも思う。

ピーターが日本に来た当初、よく大きな公園で大道芸の技を練習した。でも子ども同士で自由に遊ぶ姿はほとんどなかった。他の先進国だと、午後の

公園は、キャッチボール、サッカーやかけっこなどをする小学生の笑い声でにぎやかなのに……。

もちろん、日本の子どもも水泳教室や部活などいろいろな運動をしているけれど、応用力を高めるためには、大人をまじえず、子どもだけでルールなどを決めて活動することが必要である。

高濱先生の学習塾が毎年開くサマーキャンプの様子を読んで、「できれば日本の小学生全員に体験させたい」と思った。

※編集部より……毎小に週3回掲載している「算数脳パズル なぜペ〜」は、高濱先生が出題しています。

